

# ファーストペンギン通信

第36号  
発行日  
令和4年3月19日（土）  
発行人  
八王子実践中学校  
中学部長 石川敦史

## 卒業式挙行される 多くの感染防止対策をして

令和4年3月14日（月）多目的ホールにて挙行されました。19名の卒業生が中学の学び舎を後にしました。新型コロナ感染防止対策として、各家庭から保護者お一人のみ、来賓2名、管理職教員、中学担当教員、2年生だけが出席し、1年生や他の教職員はオンライン中継で卒業式を見守りました。

## 開式の辞

担任先導で、入場し、開式です。国家と校歌は演奏だけになりました。担任から呼名された



生徒が一人ずつ登壇し、卒業証書が校長先生から授与されました。

## 校長式辞

視覚、聴覚に障害があつても、福祉の世界で偉業を成し遂げたヘレン・ケラー女史を導いたアン・サリバン先生。そして、そのサリバン先生に生きる力を与えた掃除婦の話から、人生における出会いの大切さについて教えていただきました。

## 在校生代表送辞

たくさんの学校行事を通して卒業生が後輩のためにしてくれたこと、日々の生活でもどれほど在校生が助けられたかを述べ、感謝の言葉を伝えてくれました。

## 卒業生からの答辞

卒業生が一人ずつマイクの前に立ち、学校行事の思い出、下級生との絆について語り、そして最後に、保護者への感謝の言葉で締めくくりました。



## 仰げば尊し、嘗の光演奏

歌うことができないので、中学3年間の思い出スライドをバックに歌と演奏が流れました。卒業生の中には涙ぐみながらスクリーンを見つめている生徒もいました。



閉式後、式場を出たところで在校生からお花のプレゼントを受け、記念撮影後、HR教室に戻りました。



## 最後のLHR

保護者にも教室に入っていただき、最後の集いを行いました。賞品、記念品、成績通知表等が配布されたあと、卒業生一人ひとりから、スピーチがありました。まずは、クラスメートに対して、それから保護者に対してです。涙にむせんで言葉が出ず、教卓に突っ伏してしまう生徒もいましたが、なんとか、スピーチを終え、お手紙を家族に手渡していました。



「にいてくれました。有難うございました。これからもよろしくお願いします。」という生徒の言葉に、ハンカチで頭を押さえる保護者もいらっしゃいました。

最後は、生徒の卒業制作動画と担任制作動画を見せあいました。どちらも笑いあり、涙あり、悲鳴ありの、たいへん心温まる内容でした。3年間の集大成を見た思いです。



この学年は入試改革1年目に入学してきました。自分の頭で考え、判断し、行動できる生徒たちに育ってくれたことが大いなる喜びです。